
鬼道と私と豪炎寺

中羽眞 神奈子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼道と私と豪炎寺

【Nコード】

N1858BA

【作者名】

中羽眞 神奈子

【あらすじ】

事故で両親を失った高杉美由紀は鬼道家の養子になり、鬼道美由紀となり、そして鬼道有人の妹となった。

2人は帝国学園でサッカーをやっていたが、“総帥”影山のやり方を嫌い、自由にサッカーのできる雷門中へと転校する。

そして、雷門中のサッカー部に入り美由紀は雷門中のサッカーを楽しむが……。

ブローグストーリー3（前書き）

ご自分を鬼道美由紀と思い、お楽しみください。

プロローグ〜ストーリー3

0. プロローグ

私は昔、両親を事故で亡くしてしまった。事故の原因は、居眠りをしていたトラックと正面衝突をしてしまい、崖から落ちてしまった。

私は病室で父と母の亡骸に縋り付くように泣いた。涙が枯れるくらい・・・

「そんなに泣いていると涙が枯れるぞ。」

私は誰かに後ろから声をかけられた。

「誰!？」

「俺は鬼道有人だ。お前は今日から俺の妹だ。」

「え!？」

「お前は鬼道家の養子になったんだ。」

「養子!？」

「お前の親戚がそう決めたんだ。」

「・・・。」

「名前はなんだ?」

「高杉美由紀。」

「よろしくな、美由紀。」

私は鬼道家の養子としての生活が始まった。

1.

あれから何年か経ち今私は、14歳。帝国学園でサッカー部に入部している。

やっぱりサッカーは楽しいと思った。

そんなある日・・・。

「明日は雷門中のサッカー部と練習試合だ。」

「えっ!?!なぜ弱いところと試合を・・・?」

「雷門中とは宿命のライバルなんだ。だから、雷門中を潰す。」

「わかりました。総帥。」

そして当日……。

雷門中0点、帝国学園10点。もう雷門中が危ない時、1人の男、豪炎寺修也がやって来た。

「あつ……。。」

私の頭に何かが過った。

「あの顔……。どつかで……。。」

すると豪炎寺が1点入れた。

そして試合が終わった。

「どうした、美由紀。」

「さっきの試合でちよつと……。。」

「もしかして豪炎寺のことか？」

「えっ？なんでわかったの……。？」

「いや。で、豪炎寺がどうした。」

「あの人を見ると、心がざわつくんだ……。。」

「そうか。気のせいじゃないか？気にするな。サッカーに集中しろ。」

「う、うん。」

私はそれ以来その人のことを気にしなくなった。

2.

「総帥がお考えになっている事は私達には理解できません。」

「私もです。」

「なので、帝国学園を辞めます。」

「どこにいくのだ。」

「雷門中です。」

「なぜだ。」

「雷門中には、円堂守というキャプテンがいます。そのキャプテン

のおかげで楽しくサッカーができます。総帥が理想にしているサッカーに縛り付けられず、楽しくできるんです。」

「私はもう知らん。勝手にしろ。」

「今までありがとうございました。さようなら……。」

3 .

「今日から雷門中に通う事になりました、鬼道美由紀です。」

「鬼道さんはあその席に座ってください。」

私の席の隣は豪炎寺だった。

「あつ……。」

「よろしく、鬼道。」

「う、うん……。」

「それでは終わります。」

「起立、気を付け、礼。」

「ありがとうございました。」

「お前って帝国学園だよな。」

「う、うん。」

「なんで逃げてきた。」

「えっ……。なんでって……。影山のやり方が嫌だったんだ……。」

でも、雷門中のサッカーは自由に楽しくサッカーができるから……。」

「そうか。じゃ、円堂に言ってみるか。」

豪炎寺は席を立てて円堂の所へ行った。

「おい円堂、サッカー部に入りたい奴がいるんだが……。」

「おおー！！誰だー！！？」

「同じクラスの鬼道美由紀。」

「よし！わかった。」

そう言っていると円堂は私の所へ向かって来た。

「お前サッカーがしたいんだな！」

「うん。」

「歓迎するぞ！！美由紀！！」

「ありがとう。私、頑張る！！」

こうして私は雷門中のサッカー部に入る事ができたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1858ba/>

鬼道と私と豪炎寺

2012年1月4日19時53分発行